

取扱説明書



コーヒーマシン 8000S

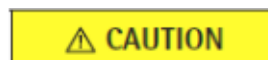
WMFコーヒーマシンをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

WMF8000Sは一杯取りの全自動コーヒーマシンで、エスプレッソ、カフェクレーム、カプチーノ、ミルクコーヒー、ラテマッキャート、ミルクフォーム、熱湯を提供できます。
オプションに設定されているパウダーホッパーを利用すると、ミルクまたはミルクフォーム入りのホットチョコレートを提供できます。



取扱説明書に必ず従ってください

- ⇒ 常に取扱説明書を参照して、特に安全に関する章、説明にご注意ください。
- ⇒ 取扱説明書は常に操作される方の手の届く場所に保管してください。
- ⇒ マシンを使用される前に取扱説明書をよくお読みください。



取扱説明書の記号とマークに常に従ってください。
安全に関する章を参照ください。
⇒ 63ページから始まります。



従わないと電気ショックによって生命に関わる危険があります

- コーヒーマシン内部の主電源電圧は生命に関わる程高圧です。
- ⇒ マシンは絶対に開けないでください。
- ⇒ ネジを緩めたり、外装の部品を取り外さないでください。



安全に関する章を参照ください。
⇒ 63ページから始まります。



使用と設置の条件

- 取扱説明書に記載のケアがされなかった場合、いかなる損傷に対しても責任を負えません。
- ⇒ 取扱説明書を参照してください。



マシン仕様
⇒ 72ページから始まります。
ケア
⇒ 58ページから始まります。

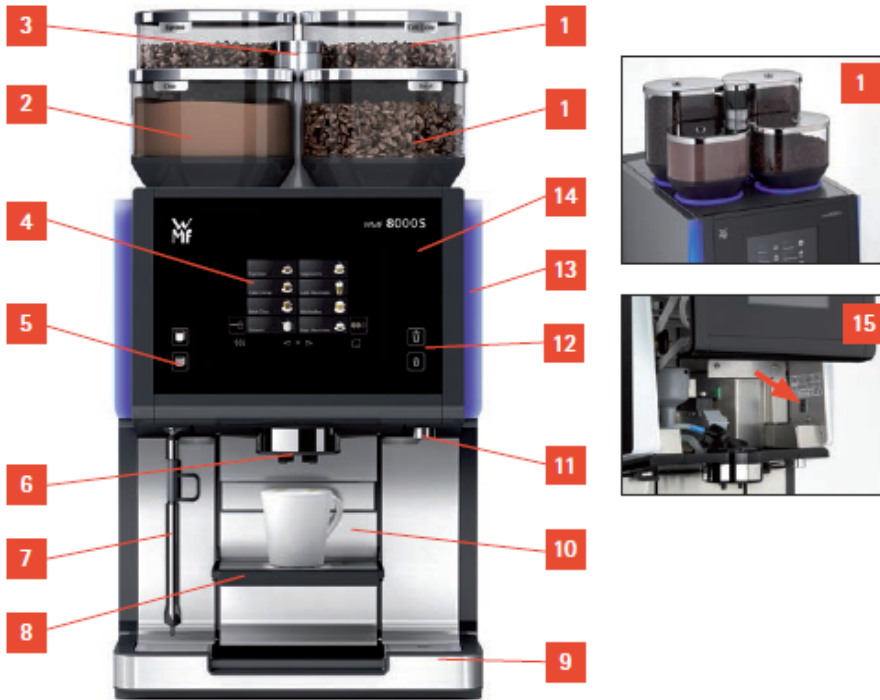
1	はじめに	6
1.1	コーヒーマシンの各部の名称	6
	ディスプレイ	6
	用語説明	9
2	操作	10
2.1	安全上の説明	10
2.2	コーヒーマシンのスイッチを入れる	11
2.3	飲料の供給	11
	供給キャンセル	11
2.4	プレ設定パッド(オプション)	12
2.5	スペシャルボタン(オプション)	12
2.6	熱湯供給	12
2.7	ミルクまたはミルクフォームの供給	12
2.8	ミルクとの接続	13
2.8.1	標準	13
2.8.2	WMFクーラー、WMFカップアンドクール付き(オプション)	13
2.9	オートスチーム(オプション)	14
2.10	イーゼースチーム	14
2.11	高さ調整機能つきカップ台	15
	自動カップ台(オプション)	15
2.12	コーヒー豆ホッパー／パウダーホッパー	15
2.13	マニュアル投入口	16
2.14	カスウケ	17
2.15	台下カスウケ(オプション)	17
2.16	コーヒーマシンのスイッチを切る	18
3	ソフトウェア	19
3.1	概要	19
	供給可能	19
	「供給可能」ディスプレイパッド	19
	メインメニュー 機能	20
	メニュー管理パッド	20
	ディスプレイ上の表示	20
3.2	供給可能	21
	「供給可能」表示	21
3.3	「供給可能」ディスプレイパッド	21
	飲料ボタン	21
	マニュアル投入パッド	21
	「ホットリンス」パッド	21
	バリスタパッド : コーヒーの濃さ	21
3.4	ケア	22
	クリーニングプログラム	22
	クリーンロック	22
	説明	23
3.5	飲料	23
	概要	23
	カップ容量と連続抽出	24
	レシピの変更	25
	テキストとイラスト	28
3.6	操作オプション	29
	ボタンのレイアウト	29
	レベルスイッチ	29

	ボタンの配置	29
	リンスの合図	30
	デカフェ係数	30
	熱湯温度のプレ選択	30
	ミルクフォームの選択	31
	S-M-L(小-中-大) (オプション)	31
	セルフサービスモード(SB)	31
	バリスタパッド	31
	「ホットリンス」パッド	32
	マニュアル投入	32
	飲料のプレ選択	32
	供給キャンセル	32
	メニューパッド	32
	エラー表示	32
3.7	インフォメーション	33
	直近の抽出	33
	タイマー	33
	サービス	33
	ケア	33
	ジャーナル	33
	取扱説明書	33
3.8	会計	34
	カウンター	34
	自動販売機	34
	ウェイター会計	34
3.9	PIN設定	35
	クリーニングのPIN	35
	設定のPIN	35
	会計のPIN	35
3.10	タイマー	36
	時刻/日付	36
	タイマーの状態	36
	タイマー設定状況と設定	36
	当日の詳細	36
	タイマー スイッチ オン/オフ時刻設定	37
	ボタンの配置状況	37
	ボタンの配置概要	37
3.11	システム	38
	ミルクとミルクフォーム	38
	イルミネーション	38
	ディスプレイの明るさ	39
	タッチディスプレイのキャリブレーション	39
	浄水フィルター	40
	マシンのオプション	40
3.12	言語	40
3.13	USB	41
	ロード レシピ	41
	ロード カップシンボル	41
	セーブ レシピ	41
	エクスポート カウンター	41
	HACCP エクスポート	41
	データ バックアップ	41
	ロード データ	41
	ファームウェアのアップデート	41

4	ケア	42
4.1	ケアと安全に関する説明	42
4.2	クリーニング間隔の概要	44
4.3	クリーニングプログラム	45
4.3.1	システムクリーニング	45
4.3.2	ミキサーのリンス	47
4.3.3	ミルクシステムのリンス	47
4.3.4	ミルクフォーマーのリンス	48
4.4	ミルクシステムクリーニングの概要	48
4.5	マニュアルクリーニング	49
4.5.1	操作パネルの清掃(クリーンロック)	49
4.5.2	カスウケの清掃(オプションのカスシューター)	49
4.5.3	ドリフトレーの清掃	50
4.5.4	外装の清掃	50
4.5.5	コーヒーマシンの下	50
4.5.6	ミルクシステムのマニュアルクリーニング	51
4.5.7	スチームノズルの洗浄	52
4.5.8	ミキサーの洗浄	53
4.5.9	コーヒー豆ホッパーの清掃	54
4.5.10	パウダーホッパーの清掃	55
5	HACCPによる洗浄スケジュール	56
6	メンテナンスとカルキ除去	58
6.1	メンテナンス	58
6.2	WMFサービス	58
7	メッセージと案内	59
7.1	操作上の案内	59
7.2	エラー表示と不具合	60
7.3	エラー表示の出ない不具合	62
8	安全について	63
8.1	操作者への危険	63
8.2	コーヒーマシンへの危険	66
8.3	マシンの使用目的	68
8.4	規制及び指針	69
8.5	オーナー／操作者の義務	70
8.6	製品保証について	71
付録:技術データ		72
コーヒーマシンの仕様		72
設置と使用環境		72
付録:付属品とスペアパーツ		76
索引		78

1 はじめに

1.1 コーヒーマシンの各部の名称



ディスプレイ




- 1 コーヒー豆ホッパー(4基まで)
- 2 パウダーホッパー(チョコ、トッピングなど) (オプション)
- 3 マニュアル投入口/洗浄剤投入口
- 4 飲料ボタンと設定のタッチパネル
- 5 スチームボタン(オートスチーム、イージースチーム:オプション)
- 6 コンビ供給口(ミルクフォーマー内蔵)
- 7 スチームノズル(オプション)
- 8 高さ調整可能カップ台
- 9 ドリップトレイとグリッド(取り外し可能)
- 10 カスウケ
- 11 熱湯ノズル
- 12 スペシャルボタン(熱湯ボタン)
- 13 イルミネーション
- 14 操作パネル
- 15 オン/オフ スイッチ

「供給可能」ディスプレイ


- 16 飲料ボタン
- 17 マニュアル投入パッド
- 18 「ホットリンス」パッド
- 19 ページ変更ボタン
- 20 メニューパッド(メインメニュー)
- 21 バリスタパッド
- 22 メッセージパッド

取扱説明書の記号とマーク

 **人体に害を及ぼす可能性**
安全についての指示に従わない不適切な使用をした場合、
重大なケガをする可能性があります。

⚠ WARNING



安全についての指示
安全に関する章を参照
⇒ 10ページ


 **人体に害を及ぼす可能性**
安全についての指示に従わない不適切な使用をした場合、
ケガをする可能性があります。


⚠ CAUTION

操作上の安全についての指示
⇒ 10ページ
ケアのための安全についての指示
⇒ 42ページ
安全に関する章を参照ください。
⇒ 63ページから始まります。

 電氣的損傷  熱いスチーム


 打撃、挟まれるケガ  熱い表面

 スリップの危険

 **機材等に対する損傷の可能性**
● コーヒーマシンに
● 設置場所に
⇒ 取扱説明書に常に従ってください

IMPORTANT

保証に関する章参照
⇒ 71ページから始まります。
マシン仕様
⇒ 72ページから始まります。

 **備考とヒント**
● 安全に使うための説明と操作を易くするためのヒント

INSTRUCTIONS

TIP

メインメニューの呼び出し

* メインメニューパッドにタッチします
メインメニューが表示されます。
その他の表示もあります⇒メインメニュー



用語説明

用語	意味
●	箇条書きの記し、選択の可能性
*	操作の段階表示
斜体文字	コーヒーマシンの状態の説明、または自動的に進む段階の説明
追加	ミルク、ミルクフォーム、チョコのようにコーヒーに加えて入れるもの
バリスタ	コーヒーのスペシャリスト
飲料供給	コーヒー、熱湯、パウダーの飲料を供給すること
容量	浄水フィルターのように、浄化できる水の総量
硬度	dKH で表示。飲料水に含まれるカルシウムの量
チョコ	ホットチョコレート
コンビ供給口	供給出口が2個ある供給口。シングルもオプションで装着可能
デカフェ	カフェインレス コーヒー
コーヒーカス シューター	⇒マシンの台下へカスを捨てるためのスライダー。17ページ
給水栓	上水道に取り付けられた栓
ミルクシステム	コンビ供給口、ミルクノズル、ミルクチューブ全体
ミキサーシステム	パウダー飲料のためのミキサー及びポーショナーの総称
パウダー飲料	チョコやトッピングのこと
ムラシ	コーヒーの香りを引き立てるために抽出直前に少量の湯で蒸らすこと
プレス	抽出直前に自動的に圧縮すること
リンス	抽出から抽出の間に洗うこと
SB モード	セルフサービスモード

2 操作


2.1 安全上の説明




ヤケドの危険性

- 飲料やスチームを供給するときには熱い液体が供給口から出ます。供給口が高温になります。
 - 洗浄の後などで、カップ台やドリフトレーが正しく取り付けられていないと熱い液体によるヤケドの危険があります。
- ⇒ 飲料やスチームの供給中は供給口の下に手などを入れないでください。
- ⇒ 供給直後の供給口に触れないでください。
- ⇒ 飲料の供給には常に適切な大きさのカップを置いてください。
- ⇒ カップ台やドリフトレーが正しく装着されていることを確認してください。



 CAUTION

安全に関する章を参照ください。
⇒ 63ページから始まります。

 CAUTION

安全に関する章を参照ください。
⇒ 63ページから始まります。



健康に悪影響

- コーヒーマシンの使用に適した材料だけを使用してください。
- ⇒ コーヒー豆ホッパーやマニュアル投入口には正規の材料だけを入れてください。

2.2 コーヒーマシンのスイッチを入れる

- * 操作パネルを上へ移動します。
- オン／オフ スイッチは操作パネルの裏側、右にあります。
- * オン／オフ スイッチを押します。
- コーヒーマシンにスイッチが入り、加熱が始まります、自動的にホットリンスが始まります。
飲料供給が可能になると、「供給可能」表示がディスプレイに出ます。

タイマー機能を使ってマシンをオンにすることもできます。



PINによるアクセス制限
⇒ PIN許諾 35ページ
タイマー設定
⇒ タイマー 37ページ

2.3 飲料の供給

飲料ボタンを押すと目的の飲料の供給が始まります。

- ボタン点灯 = 供給可能
- ボタン消灯 = 供給不能／ボタンは機能しません

- * 適切なサイズのカップをコンビ供給口下のカップ台に置きます。

手動式のカップ台のとき

- * カップ台を適度な高さに調整します。

- * 目的の飲料ボタンを押します。

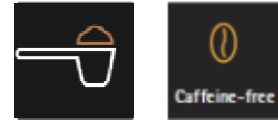
供給キャンセル

- * 押した飲料ボタンをもう一度押します。



2.4 プレ設定パッド(オプション)

マシンの機種によっては、マニュアル投入、デカフェパッドが操作パネルに追加されます。これらのパッドは飲料供給ボタンを押す前に押すことで、選択できます。



例

マニュアル投入パッドとデカフェパッド

2.5 スペシャルボタン(オプション)

オプション設定で、飲料のサイズ(小または大)を選択できるパッドがあります。プレ設定パッドで、飲料ボタンを押す前に押します。

M = 基本設定量、事前選択不要

S = Mよりも約25%少ない

L = Mよりも約25%多い



2.6 熱湯供給

* 熱湯ノズルの下に適切な大きさのカップを置きます。

* 熱湯ボタンにタッチします。

湯温を選択する表示が出ます。

* 希望する湯温にタッチします。

設定した供給パターンによって供給が始まります。

「定量」供給以外の供給パターンが選択できます。



湯温の選択

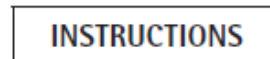
⇒ 選択肢 30ページ

スタート・ストップまたは定量



案内

湯温を選択する機能は無効にすることができます。その場合、熱湯はあらかじめ設定された温度で供給されます。



2.7 ミルクまたはミルクフォームの供給

* コンビ供給口の下に適切な大きさのカップを置きます。

* ミルクまたはミルクフォーム用に割り当てた飲料ボタンにタッチします。

設定に従って供給が始まります。

供給オプション

⇒ カップ容量 24ページ

2.8 ミルクとの接続

- * ミルクノズルをミルクフォーマーのミルク接続部に入れます。
- * ミルクフォーマーをコンビ供給口に取り付けます。(1)(2)
- * ミルクチューブをピンチバルブに入れます。(3)
- * ミルクチューブを穴を通して後ろへ回します。

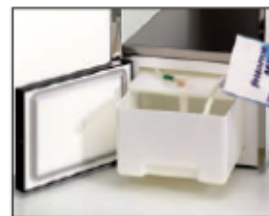


2.8.1 標準

- * ミルクパックを開けてマシンの左側に置きます。
 - * ミルクパックにミルクチューブを入れます。
- チューブの先がパックの底に付くようにしてください。

2.8.2 WMFクーラー、WMFカップアンドクール付き(オプション)

- * クーラーからミルク容器を取り出します。
 - * ミルク容器のフタを押し戻します。
 - * 容器にミルクを注ぎます。
 - * 容器のフタを戻します。
 - * ミルクチューブのアダプターをミルク容器のフタにあるアダプターに差し込みます。
 - * こぼさないように注意して容器を元に戻します。
- ミルクチューブがアダプターに差し込まれました。



2.9 オートスチーム(オプション)

オートスチーム機能で、ミルクを温めたり、泡立てることができます。
 スチームボタンを押すと、あらかじめ設定されたミルクフォームの質で供給します。
 3種類のミルクフォームの質を選択できる画像が開かれます。
 次の3種類になります。

- 標準 (Standard)
- 細かい (Fine)
- 特に細かい (Superfine)

オートスチームにはもう一つのミルクボタンがあります。



ミルクボタン

スチームボタン



ボタンの配置

⇒ 操作オプション 29ページ

レシピの変更

⇒ 飲料 25ページ

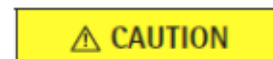
ミルク温め、またはミルクフォーム作製

- * 細長い容器に希望する量のミルクを入れます。
 ミルクはフォームがこぼれないように半分以下にしてください。
- * スチームノズルを容器の底近くまで入れます。
- * オートスチームボタンを短くタッチします。
 オートスチームボタンの設定に従ってスチームが噴出されます。
 スチームの噴出は設定温度に達するか、オートスチームボタンに再度タッチすると止まります。
- * 湿った布でスチームノズルをぬぐいます。



ヤケドの危険

- 90°Cに設定していると、ミルクまたはミルクフォームが吹きこぼれる恐れがあります。
 ⇒ ミルクは容器の半分以下にしてください。



ヒント

- ⇒ ミルクを加熱しすぎないでください。ミルクフォームの量が減ります。



2.10 イージースチーム

イージースチームのノズルで飲料を温めることができます。

2.11 高さ調整機能つきカップ台

- * カップ台を適切な高さにずらしませす。
カップ台の前方、中央部分をつまむとスムーズにずらせませす。

最大高さ: 195mm

自動カップ台(オプション)

自動カップ台は、飲料によって高さを調整ませす。台は飲料供給前に自動的に最適な高さに移動ませす。

カップ台高さ ⇒ 28ページ



2.12 コーヒー豆ホッパー／パウダーホッパー

- ホッパーはなるべくカラになる前に補充させてください。
- 飲料の鮮度を守るために、ホッパーに入れる量は一日の使用量に合わせてさせてください。



- 異物が混入するとグラインダーが損傷ませす。この場合保証の対象と
なりませすのでご注意ください。
- ⇒ ホッパーには異物が入らないようにさせてください。

IMPORTANT

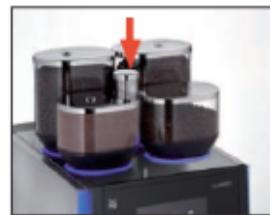
保証の章参照
⇒ 21ページ

2.13 マニュアル投入口

マニュアル投入口はマシン天板の中央にあります。

マニュアル投入口の用途

- デカフェなどの異なる種類のコーヒーを淹れるとき
- コーヒーのテスト
- クリーニング時の錠剤投入



- コーヒー粉ないし洗浄剤はディスプレイ表示後に入れてください。
- マニュアル投入はコーヒー粉だけを入れてください。
- インスタントコーヒーの粉は使わないでください。
- メッシュの細かすぎるコーヒー粉は使わないでください。

IMPORTANT

保証の章を参照⇒71ページ

マニュアル投入口を使ったコーヒーの入れかた(オプション)

- * 「マニュアル投入口」パッドにタッチします。
- * 希望する飲料ボタンにタッチします。

マニュアル投入口が自動的に開きます。

- * 最大16gまでの粉コーヒーを入れます。
- * マニュアル投入口を閉じます。

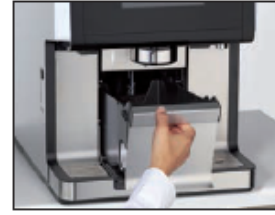
希望する飲料が供給されます。



2.14 カスウケ

カスウケは抽出の終わったコーヒーカスを収容します。
カスウケは抽出約70回分の容量があります。
カスウケをカラにする必要時にはディスプレイ表示が出ます。
カスウケがマシン外にあるときは抽出がブロックされます。

- * カップ台を一番下に移動します。
- * カスウケを取り出します。
- * カスウケをカラにして元に戻します。
- * ディスプレー上で確認します。



カスウケの清掃

⇒ マニュアル清掃 49ページ



- ⇒ カスウケをカラにしないで元に戻すとコーヒーカスがあふれ出ます。
コーヒーマシンが汚れて、マシンの損傷につながる場合があります。
- ⇒ カスウケがうまく戻せないときは、シューター部分に汚れがないか点検して
汚れを取り除いてください。
- ⇒ カスウケを戻すときは常にカラの状態に戻してください。

IMPORTANT

保証の章を参照⇒71ページ

2.15 台下カスウケ(オプション)

コーヒーマシンは台下のカスウケを使用できます。この場合、マシンとカスウケ、そしてマシン台に開口部を設けます。これによってマシン台の下にあるカスウケにコーヒーカスを貯めることができます。

重要

毎日カスのシューターを清掃してください。

⇒ マニュアル清掃 49ページ

2.16 コーヒーマシンのスイッチを切る



衛生に注意を払ってください

- 健康に悪影響のある細菌がコーヒーマシンの中で繁殖することがあります。
⇒ コーヒーマシンのスイッチを切る前に必ず毎日の洗浄をしてください。



マニュアルに従ってください

- 従っていただけなかったときの損害については責任を負いかねます。

* 操作パネルを上にはずします。

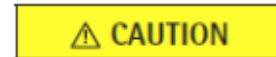
オン／オフ スイッチはパネル裏の右側にあります。

* オン／オフ スイッチを短く(約1秒)押します。

コーヒーマシンのスイッチが切れます。

* 主電源プラグを外します。

* 給水栓を閉じます。



安全に関する章参照⇒63ページ
取扱説明書に従ってマシンを洗浄してください。
手入れ⇒42ページ



保証の章を参照⇒71ページ



PINアクセス制限
⇒ PIN許諾 35ページ

3 ソフトウェア



- 飲料設定のときも、マシン操作と同様に安全上の注意が必要です。
⇒ 全て操作と同様の安全上の説明に従ってください。

CAUTION

安全上の説明⇒10ページ

3.1 概要

供給可能

31ページ



ボタンの割り振り

⇒ 操作オプション 29ページ

ディスプレイ上のパッドやボタンは

設定やマシンモデルによって異なります。

「供給可能」ディスプレイパッド

21ページ



バリスタ(コーヒーの濃さ)
21ページ



マニュアル投入口
21ページ



デカフェ パッド
12ページ

メインメニュー 機能



ケア
22ページ



飲料
23ページ



操作オプション
29ページ



インフォメーション
33ページ



会計
34ページ



PIN設定
35ページ



タイマー
36ページ



システム
38ページ



言語
40ページ



USB
41ページ

メニュー管理パッド



メインメニューへ



前のメニューへ



PIN入力



次へ



ヘルプ表示



設定の保存



ディスプレイ上の表示



エラー表示



3.2 供給可能

「供給可能」表示

供給可能表示は設定やコーヒーマシンのオプションの種類によって異なります。


ボタンの割り振り

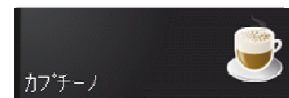
⇒ 操作オプション 29ページ

3.3 「供給可能」ディスプレイパッド

飲料ボタン

供給可能な飲料は全て照明がつきます。

 ボタンを使って他のページへ移動します。



例:カプチーノボタン

マニュアル投入パッド

マニュアル投入パッドはあらかじめ選択するパッドです。

飲料ボタンを押す前にマニュアル投入パッドにタッチすると、コーヒーマシンをマニュアル投入口から投入するように表示が出ます。通常とは異なる種類のコーヒーマシンを使用できます。



マニュアル投入口(有効/無効)

⇒ 操作オプション 29ページ

「ホットリンス」パッド

* 「ホットリンス」パッドにタッチします。

管路をお湯が流れてリンスが始まります。抽出系の管路を温めてコーヒーマシン温度を保ちます。

長い時間抽出をしなかったとき、特にエスプレッソを抽出する前の使用をお奨めします。



「ホットリンス」パッド(有効/無効)

⇒ 操作オプション 29ページ

バリスタパッド : コーヒーマシンの濃さ

	表示	コーヒーマシンの濃さ
タッチなし	豆2個	設定通り
1回タッチ	豆3個	設定より15%濃い*
2回タッチ	豆1個	設定より15%薄い*



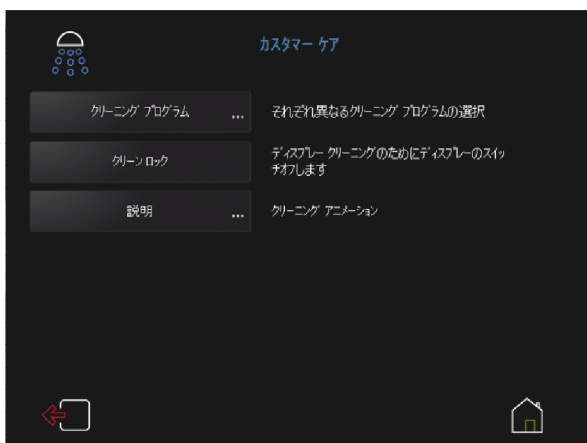
バリスタパッド(有効/無効)

⇒ 操作オプション 29ページ

*1回の抽出で使えるコーヒーマシン粉は最大19g。

コーヒーマシンの濃さの変更は抽出1回限りです。

3.4 ケア



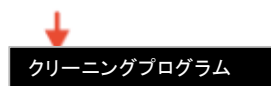
メニュー管理パッド
⇒ 概要 20ページ

ケアの章
⇒ 42ページから

HACCP洗浄予定表
⇒ 56ページから

クリーニングプログラム

- システムクリーニング
クリーニング後、マシンのスイッチを切る、切らないに関わらず
- ミキサーのリンス
- ミルクシステムのリンス
- ミルクフォーマーのリンス



ケアの章
⇒ 42ページから

クリーンロック

* **クリーンロック** にタッチします。
15秒のカウントダウンが始まります。
タッチパネルの清掃ができます。
タッチパネル(ボタン)は15秒後に使用可能になります。



説明

クリーニングプログラム、ミキサーやコンビ供給口の脱着方法が画像で説明されます。



説明

フィルター交換(オプション)

WMFサービスによって認められた操作者がいるときだけ使えます。



フィルター交換

3.5 飲料**概要****供給テスト**

新しい飲料設定を保存する前に、供給テストができます。



* 設定を変更します。

* 「供給テスト」パッドにタッチします。

新しい設定に従って飲料が供給されます。

* 新しい設定が満足なものであれば「保存」パッドにタッチします。
レシピが保存されます。



例:カプチーノボタン

レシピの保存

変更されたレシピが保存されます。



カップ容量と連続抽出

希望する容量を設定します。レシピは自動的に更新されます。
100%は以前に保存された容量を指します。

**カップ容量 S-M-L (小-中-大)**

Sサイズ、Lサイズは設定されたMサイズを元にして計算されます。

S = 設定値(M)より25%少ない。

L = 設定値(M)より25%多い。

S-M-Lの機能は、操作上の選択肢で有効にできます。操作中の選択肢で、カップ量は全ての飲料について個別に設定できます。標準から外れる飲料についても、S-M-L量はカップ容量で設定できます。

それぞれのサイズについて、有効または無効にすることができます。無効にすると、該当する飲料の選択肢が消えます。

	S	M	L
	72	97	122
	73	98	123
	74	99	124
%	75	100	125
	76	101	126
	77	102	127
	78	103	128

☑ S-active ☐ Active ☐ L-active

それぞれの飲料のS-M-L変更
⇒ カップ容量

連続抽出

飲料ボタンを1回押して12回までの連続抽出を設定することができます。

この機能は、コーヒー及び付随する添加飲料(ミルクフォームなど)、また定量供給に設定された熱湯に適用できます。

供給オプション

- スタート - ストップ
供給は設定した量に達するまでされます。
途中で止めるには、供給ボタンをもう一度押します。
- 定量
設定した量を供給します。これはミルク、ミルクフォーム、熱湯に使われます。

- フリーフロー
飲料及びスチームはボタンを押している間、供給が続きます。
- スタート - ストップ - フリーフロー
ボタンを短く押すとスタート - ストップの供給になります。
ボタンを1秒間以上押すと、フリーフロー供給になります。

レシピの変更



メニュー管理パッド
⇒ 概要 20ページ



現在のレシピの構成

レシピに加える項目が表示されます。
順番は左から右になります。 追加の上と下は同時に処理できます。
不可能な設定に対してはソフトウェアが知らせます。

工場を設定された追加の保存

レシピに追加できる項目は次の手順で決定します。

- * 希望する追加にタッチして、そのまま現在のレシピの中にスライドしていきます。

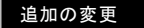
追加の削除

現在のレシピから追加(添加)を削除します。



追加の変更

* 追加にマークをつけて「追加変更」の画像にタッチします。

 メニューが開かれます。

様々な追加の候補が表示されます。

保存されたもの、現在のデータが表示されます。



現在の値



サービスによって保存された値



工場設定値

コーヒー粉の量

グラムで入力



湯量／ミルクの量

ミリリットル(cc)で入力



抽出温度

摂氏(°C)で入力



コーヒーの質

コーヒーの質のレベルはコーヒー抽出に影響します。
レベルを高くするほど、抽出されるコーヒーの香りと味が強まります。



質のレベル

- 1 圧縮の後、コーヒー粉を膨らますための空間ができます。
- 2 圧縮の直後から抽出が始まります。
- 3 ムラシ行程に入ります。
- 4 ムラシの後、2回目の圧縮をします。
- 5 第4段階と同様ですが、更に強い圧縮をします。
- 6 第5段階と同様ですが、更に強い圧縮をします。
- 7 第6段階と同様ですが、圧縮時間が長くなります。

解説と指示

とても細かい粉を使用して、少ない湯量で抽出すると、質のレベルは上がりますが、抽出湯の流れが阻害されることがあります。

コーヒーグラインダーの選択

1回の抽出で使用される粉の量は10です。10に達するまで別々のグラインダーから粉を投入することができます。これによって、より差のある味と香りを作れます。



文字とイラスト



メニュー管理パッド

⇒ 概要 20ページ

文字とイラスト

飲料名と飲料画像のボタン設定をします。
キーボードパッドにタッチしてキーボード操作にします。

コメント

飲料についての備考をここに保存します。

カップの高さ(オプション)

自動カップ台専用。
飲料カップの高さを設定します。
カップのサイズは画面右側のカップのイラストに沿って決めます。
イラストにタッチすることで、高さが決定されて保存されます。

S(小)及びL(大)の飲料については
飲料ボタンを選択する前に、選択しておく
必要があります。

3.6 操作オプション

セルフサービスのモードでは、いくつかの機能を無効にしておくことができます。無効にしておくと、該当するボタンが画面に表示されません。



ボタンのレイアウト

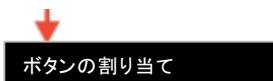
種々のボタンの配置が保存されていて、選択できます。



レベルスイッチ

選択肢 ● 有効 ● 無効

初期値  無効



有効 いくつかの段階の飲料の選択ができます。(閲覧ページ)

ボタンの配置

文字とイラスト

⇒ 28ページ



ボタンの入れ替え

2種類の飲料ボタンの入れ替えをします。

- * 飲料ボタンにタッチします。
- * 「ボタン変更」パッドにタッチします。
- * 入れ替えられる飲料のボタンにタッチします。
- * 入れ替えを確認します。



ロードレシピ

保存されているレシピを飲料ボタンに転送します。

- * 飲料ボタンにタッチします。
- * 「レシピ転送」パッドにタッチします。

サブメニューが開かれます。

- * 希望するレシピをマークします。
- * 「レシピ保存」パッドにタッチします。

飲料ボタンに新しく選択したレシピが転送されました。



リンスの記号

選択肢 有効 無効

初期値 有効

有効 自動リンスが始まる前にブザー音がします。

デカフェ係数

デカフェを決める係数を入力します。

コーヒー粉の量は通常のコーヒー抽出レシピの量に対する割合で設定します。

この設定はデカフェを前もって選択したときに全ての飲料に対して有効です。

選択肢 有効 無効

初期値 無効

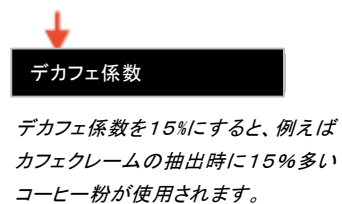
熱湯温度のプレ選択

選択肢 有効 無効

初期値 無効

有効 熱湯供給ボタンを押すと、選択のために3種類の温度が表示されます。

無効 温度の選択はできません。



ミルクフォームの選択

ミルクフォームはオートスチームのときだけ
選択できます。

選択肢 ● 有効 ● 無効

初期値 有効

S-M-L(小-中-大) (オプション)

選択肢 ● 有効 ● 無効

初期値 有効

有効 「供給可能」表示の中で飲料サイズの選択のパッドが表示されます。

セルフサービスモード(SB)

選択肢 ● 有効 ● 無効

初期値 無効

セルフサービスモードが有効のとき、次の設定ができます。

- レベルスイッチ:無効
- バリスタパッド:無効
- 「ホットリンス」パッド:無効
- マニュアル投入:無効
- 飲料のプレ選択:無効
- 飲料供給停止:無効
- メニューパッド:遅れて表示
- エラー表示:記号

バリスタパッド

選択肢 ● 有効 ● 無効

初期値 有効

「ホットリンス」パッド

選択肢 ● 有効 ● 無効

初期値 有効

マニュアル投入

選択肢 ● 有効 ● 無効

初期値 有効

飲料のプレ選択

選択肢 ● 有効 ● 無効

初期値 無効

有効 事前に選択(予約)しておいた飲料が連蔵して供給されます。

供給キャンセル

選択肢 ● 有効 ● 無効

初期値 有効

メニューパッド

選択肢 ● 即時 ● 遅れて

初期値 即時

エラー表示

選択肢 ● 文字 ● イラスト

初期値 文字

3.7 インフォメーション

インフォメーションには次の項目があります。



直近の抽出

最後に抽出した情報です。



直近の抽出



タイマー

タイマー

1週間のタイマー設定。マシンのオンとオフの予定を表示します。



サービス

サービス

WMFサービスと連絡した記録。
コーヒーマシンのマシン番号



ケア

ケア

コーヒーマシンのプログラムに従った最近のクリーニングとケアの記録が表示されます。



ジャーナル

ジャーナル

マシンの操作上の不具合やクリーニングの記録が表示されます。



取扱説明書

取扱説明書

取扱説明書が画面表示されます。またはUSB接続を通して転送されます。

3.8 会計



カウンター

それぞれの飲料と飲料合計の数が表示されます。
記録はUSB出力から読み取れます。

飲料	カイケイ カウンター			
	カウンター 1	カウンター 2	カウンター 3	カウンター 4
エスプレッソ	1	1	1	1
熱湯 大	1	1	1	1
カプチーノ	2	2	2	2
ミルクフォーム	1	1	1	1



標準設定

- カウンター1 = 1日のカウンター
- カウンター2 = 1週間のカウンター
- カウンター3 = 1ヶ月のカウンター
- カウンター4 = 1年のカウンター



カウンターはいずれも無効にすることができます。

自動販売機

自動販売機の取扱説明書を参照してください。

ウェイター会計

バリスタ会計の取扱説明書を参照してください。

ヒント



3.9 PIN設定

下記の分野のPINコードを設定できます。

- クリーニング
- 設定
- 会計



PINには階級があります。

例えば、設定のPINは洗浄のPINも兼ねますが、会計のPINには無効です、

PIN設定をしないときは、PIN入力なしで操作ができます。

PIN設定がされていると、PIN入力無しには操作できません。

クリーニングのPIN

PIN入力すると、次の項目にアクセスできます。

- ケア



設定のPIN

PIN入力すると、次の項目にアクセスできます。

- ケア
- ミルクとミルクフォームの設定
- タイマー設定
- 飲料などの設定

スチームミルクボタン使用のミルクとミルクフォーム設定は会計のPINが必要です。



会計のPIN

PIN入力すると、次の項目にアクセスできます。

- ケア
- PINによって制限されているオン・オフ スイッチ
- ミルクとミルクフォームの設定
- タイマー設定
- 飲料などの設定
- PINのアクセス制限設定
- 供給飲料の数量管理



3.10 タイマー



時刻と日付

現在の日付と時刻を設定します。




時刻/日付

タイマーの状態

タイマー設定の現状を表示します。

選択肢 ● 有効 ● 無効

初期値  無効

有効 タイマーが作動しています。

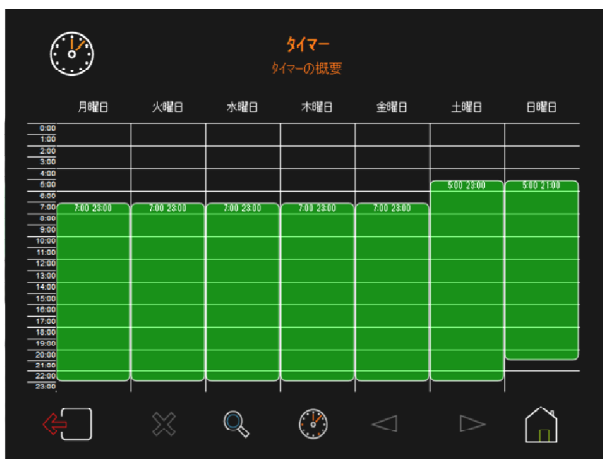
無効 タイマーは作動していません。

タイマー設定状況と設定

タイマーが作動する(オンとオフ)時刻の予定表



タイマーの概要



当日の詳細

毎日と毎週のスイッチの作動の表。一日の表は当日の表です。



タイマー スイッチ オン/オフ時刻設定


- 設定したい日を選択します。
- スイッチを入れる時刻と切る時刻を入力します。



タイマー設定は選択した全ての日に適用されます。
確認をすると設定された時刻の週間予定表が表示されます。個々の時刻はこの表の中で変更できます。

ボタンの配置の状況

選択肢 ● 有効 ● 無効

初期値  無効

有効 ボタン配置はタイマーによって自動的に決められます。

例:セルフサービス 21:00から06:00まで

ボタンの配置概要

スイッチ作動のボタンの配置が表示されます。
この表の中でスイッチ作動時刻の変更ができます。



キーボードのレイアウトの概要

ボタン配置の最短時間は30分です。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
0:00							
1:00							
2:00							
3:00							
4:00							
5:00							
6:00							
7:00	Standard	Standard	Standard	Standard	Standard	7:00 22:00 SB	7:00 22:00 SB
8:00							
9:00							
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							
22:00							
23:00							

3.11 システム



ミルクとミルクフォーム

ミルクとミルクフォームの包括的な数値を設定します。この数値は全てのレシピに適用されます。

レシピの中で特別に設定した数値がある場合、これらの数値は変更されません。



ミルクとミルクフォーム

ミルク保存温度

ミルク保存温度を設定します。

カップアンドクールを使用している場合、8°C以下です。(例)

オプションのカップアンドクール使用のときは温度のモニタリングができます。

ホットミルクフォームの割合

選択肢 とても少ない、少ない、普通、多い、とても多い

初期値 とても少ない

コールドミルクフォームの割合

選択肢 とても少ない、少ない、普通、多い、とても多い

初期値 多い

イルミネーション

イルミネーションの色を設定します。

カラーダイヤルの三角を回して希望の色を選択します。

RGB数値を使っても色の設定はできます。

次の選択肢もあります。

- ゆっくり色の変化
- 普通に色変化
- 速く色変化
- オフ

設定直後から新しい色になります。



イルミネーション

供給可能なときのイルミネーション

- タンクに供給可能な色(オプション)
- 側面に供給可能な色

イベントの表示(メッセージ)

選択肢 ● 有効 ● 無効

例:コーヒー豆不足の表示

初期値 無効

有効 表示が出ている間に照明の調整ができます。

メッセージ(イベント)のイルミネーション

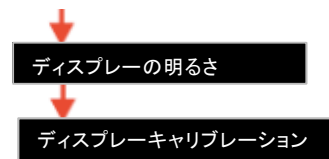
- タンクにイベントの色(オプション)
- 側面にイベントの色

ディスプレイの明るさ

ディスプレイの明るさの調整をします。

タッチディスプレイのキャリブレーション

タッチディスプレイのキャリブレーションです。



浄水フィルター

選択肢 ● 有効 ● 無効

初期値  無効

有効 浄水フィルターが取り付けられています。フィルターの容量と水の硬度の
入力が必要です。

フィルターの容量

フィルターの容量をリットルで入力します。

水の硬度

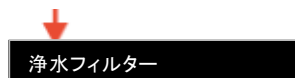
水の硬度を dKH で入力します。

マシンのオプション

サービス員専用です。

3.12 言語

ディスプレイ上で使用する言語を設定します。
使用できる言語が英語で表示されます。



3.13 USB

USB接続によってデータの交換が可能です。
USBの接続はカバー裏の操作パネルの左上にあります。

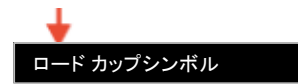


ロードレシピ

保存されたレシピを転送します。



ロードカップシンボル



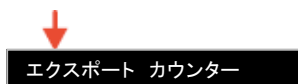
セーブレシピ

USBへレシピを転送します。



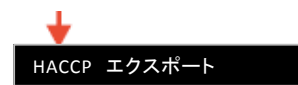
エクスポート カウンター

カウンターがCSVファイルに転送されます。



HACCPエクスポート

洗浄の記録がHACCPの証拠として転送されます。



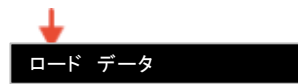
データ バックアップ

マシンデータ、飲料のデータなどが保存されます。



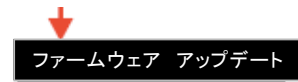
ロードデータ

マシンデータ、飲料のデータなどが転送されます。
これはPINで保護できます。



ファームウェア アップデート

サービス員だけの項目です。



4 ケア

4.1 ケアと安全に関する説明

コーヒーマシンが故障しないように、また常に良いコーヒーの品質を保つために定期的なクリーニングは不可欠です。



健康への悪影響/衛生

- ミルクは繊細なものです。ミルク管路の中で細菌が繁殖して健康に悪影響を与える恐れがあります。
- ⇒ ミルクシステムは毎日クリーニングしてください。
- ⇒ プラグアンドクリーン付きでないコーヒーマシンは、コンビ供給口を毎日業務終了時にマニュアル洗浄をしてください。
- ⇒ プラグアンドクリーン付きコーヒーマシンは、コンビ供給口を毎週1回業務終了時にマニュアル洗浄をしてください。
- ⇒ ミルクチューブは定期的に交換してください。
- ⇒ HACCPによるクリーニング予定表を守ってください。

⚠ CAUTION

安全に関する章を参照ください。
⇒ 63ページから始まります。



健康への悪影響/衛生

- 使用されていないコーヒーマシンの中で細菌が増える恐れがあります。
- ⇒ マシンを数日間使わないときは、終了時と再使用するときに必ずクリーニングしてください。

⚠ CAUTION

安全に関する章を参照ください。
⇒ 63ページから始まります。



健康への悪影響/衛生

- 洗剤は全てクリーニングプログラムに沿ったものです。
- ⇒ 洗剤及びカルキ除去剤は必ずWMFのものをお使いください。

⚠ CAUTION

安全に関する章を参照ください。
⇒ 63ページから始まります。



健康への悪影響／刺激とヤケドの危険

- クリーニング中にコンビ供給口から熱い液体が出ます。
 - 熱い液体は皮膚に刺激を与え、ヤケドの恐れがあります。
- ⇒ クリーニング中は供給口の下に絶対に手などを出さないでください。
- ⇒ 洗剤は絶対に飲んだりしないでください。

⚠ CAUTION

安全に関する章を参照ください。

⇒ 63ページから始まります。

4.2 クリーニング間隔の概要

ケア				
毎日	毎週	定期的	自動	
クリーニングプログラム				
X				抽出システムの洗浄(標準/プラグアンドクリーン/アクティブミルク)
X				ミキサーの rinse
X				ミルクシステムの rinse
X			X	ミルクフォーマーの rinse
マニュアル洗浄				
X				操作パネルの清掃(クリーンロック)
X				カスウケの洗浄
X				ドリフトレーの洗浄
X				外装の清掃
X				ミルクシステムのマニュアル洗浄(標準)
	X			ミルクシステムのマニュアル洗浄(プラグアンドクリーン)
	X			ミルクシステムのマニュアル洗浄(アクティブミルク)
(X)	X			ミキサーのクリーニング*
		X		コーヒー豆ホッパーの清掃
		X		パウダーホッパーの清掃*



クリーニングプログラム
⇒ 45ページ

⇒ 49ページ

⇒ 49ページ

⇒ 50ページ

⇒ 50ページ

⇒ 51ページ

⇒ 48ページ

⇒ 48ページ

⇒ 53ページ

⇒ 54ページ

⇒ 55ページ

- 毎日 = 少なくとも一日に1回
- 毎週 = 週に1回
- 定期的 = 定期的に必要な時
- 自動 = 自動的に進められます
- (X) = 毎日必要な時
- * = オプション(モデルによります)

4.3 クリーニングプログラム

4.3.1 抽出システムのクリーニング

自動クリーニングプログラムはコーヒー抽出に関連するシステムをWMF洗浄錠剤で洗浄します。画像による案内
 ミルクシステムのリンソとミキサーのリンソもシステムクリーニングに含まれます。
 クリーニングは約10分かかります。

- ⇒ コーヒーマシン
- ⇒ メインメニュー
- ⇒ ケア
- ⇒ 案内



健康への悪影響／刺激とヤケドの危険

- クリーニング中にコンビ供給口と熱湯ノズルから熱い液体が出ます。
 - 熱い液体は皮膚に刺激を与え、ヤケドの恐れがあります。
- ⇒ クリーニング中は供給口の下に絶対に手などを出さないでください。
 ⇒ 洗剤は絶対に飲んだりしないでください。



安全に関する章を参照ください。
 ⇒ 63ページから始まります。



クリーニングプログラムが始まる前にカップ台は常に中央に移動してください。



クリーニングプログラムは段階ごとにディスプレイ表示で案内します。
 指示に従ってください。



システムクリーニング(標準)

開始

- * ケアメニューを選択します。
- * **クリーニング プログラム** にタッチします。
- * **システム クリーニング** にタッチします。

「クリーニング後、スイッチを切りますか?」という質問が出ます。

- **イエス** と確認すると、コーヒーマシンのスイッチはクリーニング後に切れます。
- **ノー** と確認すると、クリーニング後スイッチは切れません。
- * 希望する項目を選択します。
- * ディスプレーに情報が表示されます。



クリーニング中に少量の水がカスウケに入りますが、これは不具合ではありません。

システムクリーニング(プラグアンドクリーン)

プラグアンドクリーン付きコーヒーマシンのクリーニングは、プラグアンドクリーン用アダプターを使います。

開始

- * ケアメニューを選択します。
- * **クリーニング プログラム** にタッチします。
- * **システム クリーニング** にタッチします。
- * ディスプレーに情報が表示されます。



システムクリーニング(アクティブミルク)

アクティブミルク付きコーヒーマシンのクリーニングは、青色の専用容器が必要です。

開始

- * ケアメニューを選択します。
- * **クリーニング プログラム** にタッチします。
- * **システム クリーニング** にタッチします。
- * ディスプレーに情報が表示されます。



4.3.2 ミキサーのリンス



健康への悪影響／ヤケドの危険

- リンス中にコンビ供給口から熱湯が出ます。
- ⇒ リンス中に絶対に手などを供給口の下へ入れないでください。

ミキサーのリンスは単独で開始できます。

- * ケアメニューを選択します。
- * クリーニング プログラム にタッチします。
- * ミキサー リンス にタッチします。
- * ディスプレーに情報が表示されます。

4.3.3 ミルクシステムのリンス



健康への悪影響／ヤケドの危険

- リンス中にコンビ供給口から熱湯が出ます。
- ⇒ リンス中に絶対に手などを供給口の下へ入れないでください。

ミルクシステムのリンスは単独で開始できます。ミルク飲料の供給がしばらくなかったときなどに有効です。

ミルクチューブ、ミルクノズル、コンビ供給口をリンスします。

- * ケアメニューを選択します。
- * クリーニング プログラム にタッチします。
- * ミルクシステム リンス にタッチします。
- * ディスプレーに情報が表示されます。

⚠ CAUTION

安全に関する章を参照ください。
⇒ 63ページから始まります。

画像による案内

- ⇒ コーヒーマシン
- ⇒ メインメニュー
- ⇒ ケア
- ⇒ 案内

⚠ CAUTION

安全に関する章を参照ください。
⇒ 63ページから始まります。

イラストによる案内

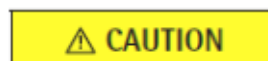
- ⇒ コーヒーマシン
- ⇒ メインメニュー
- ⇒ ケア
- ⇒ 案内

4.3.4 ミルクフォーマーのリンス



健康への悪影響/ヤケドの危険

- リンス中にコンビ供給口から熱湯が出ます。
- ⇒ リンス中に絶対に手などを供給口の下へ入れないでください。



安全に関する章を参照ください。
⇒ 63ページから始まります。

ミルクフォーマーのリンスは単独で開始できます。また、自動的にリンスもできます。ミルク飲料を供給した後、設定した時間内に供給がないと自動的にリンスが始まります。自動的にリンスが始まる時はブザー音で知らせます。ミルクフォーマーのリンスが始まったときには、飲料の入ったカップを供給口の下に置かないようにしてください。

- * ケアメニューを選択します。
- * **クリーニング プログラム** にタッチします。
- * **フォーマー リンス** にタッチします。
- * ディスプレーに情報が表示されます。

4.4 ミルクシステムクリーニングの概要

自動クリーニングプログラム⇒45ページ
ミルクシステムマニュアル洗浄⇒51ページ

	ミルクシステム		
	標準	プラグアンドクリーン	アクティブミルク
ミルクフォーマーのオートリンス	X	X	X
ミキサーオートリンス	X	X	X
ミルクシステムクリーニング(標準)	X		
ミルクシステムクリーニング(プラグアンドクリーン)		X	
ミルクシステムクリーニング(専用容器使用)			X
毎日(ミルクシステムマニュアル洗浄)	X		
毎週(ミルクシステムマニュアル洗浄)		X	X

4.5 マニュアル清掃

WMFケア用品の注文

⇒ 付属品と交換部品 74ページ

4.5.1 操作パネルの清掃(クリーンロック)

クリーンロックにタッチすると、15秒間のカウントダウンが始まります。その間に操作パネルの清掃をします。15秒後にタッチパネルは復帰します。



ヤケドの危険

- 間違って飲料が供給されてしまうと、ヤケドの恐れがあります。
- ⇒ 清掃の前に必ず「クリーンロック」でロックしてください。



安全に関する章を参照ください。

⇒ 63ページから始まります。



- 傷をつける恐れがあります。

- ⇒ クレンザーの類は使わないでください。
- ⇒ メタルウールのたわしなどは使わないでください。
- ⇒ 柔らかな布を使ってください。

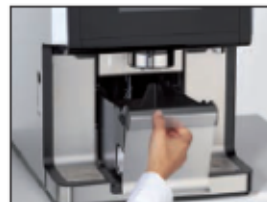


製品保証の章参照

⇒ 71ページから始まります。

4.5.2 カスウケの清掃(オプションのカスシューター)

- * カスウケをカラにして流水で洗います。
- * 清潔な濡れ布巾でぬぐいます。
- * 乾燥させてから元に戻します。



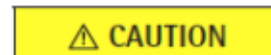
4.5.3 ドリップトレイの清掃



ヤケドの危険

- ドリップトレイには熱い液体が入っていることがあります。
 - ドリップトレイの清掃の後で、カップ台が正しく取り付けられていないと熱い液体でヤケドをする恐れがあります。
- ⇒ ドリップトレイの取り付け、取り外しには注意してください。
- ⇒ 元に戻すときには、水がこぼれないようにしてください。
- ⇒ カップ台が正しく取り付けられているか確認してください。

- * カップ台右下のドリップトレイのロックを外します。
- * カップ台のドリップトレイを外します。
- * ドリップトレイを外します。
- * いずれのドリップトレイも良く洗います。
- * 流水でよくすすぎます。
- * 乾かしてから元に戻します。



安全に関する章を参照ください。
⇒ 63ページから始まります。



4.5.4 外装の清掃



- 傷をつける恐れがあります。
- ⇒ クレンザーの類は使わないでください。
- ⇒ メタルウールのたわしなどは使わないでください。
- ⇒ 柔らかな布を使ってください。



製品保証の章参照
⇒ 71ページから始まります。

マット仕上げの金属部分にはWMFスーパーブライトクリーナーの使用をお奨めします。

4.5.5 コーヒーマシンの下

- * 受け皿を外して清掃します。
- * 濡れた布巾でマシンの下を拭きます。



4.5.6 ミルクシステムのマニュアル洗浄



ヤケドの危険

- 間違って飲料が供給されてしまうと、ヤケドの恐れがあります。
- ⇒ 洗浄の前に必ずマシンのスイッチを切ってください。
- ⇒ 主電源から外してください。

⚠ CAUTION

安全に関する章を参照ください。
⇒ 63ページから始まります。

イラストによる案内

- ⇒ コーヒーマシン
- ⇒ メインメニュー ⇒ ケア
- ⇒ 案内

- * コンビ供給口のところにあるレバーを引きます。
- * コンビ供給口を外します。
- * ミルクチューブをミルク容器とコンビ供給口から外します。
- * ミキサーチューブが付いているなら外します。
- * WMF洗剤5ccを500ccのぬるま湯に入れて攪拌します。



目に入ると危険です

- WMFのミルクシステム用洗剤は目に入ると危険です。
- ⇒ WMFのミルクシステム用洗剤を人や動物の目に絶対に入れないようにしてください。

⚠ CAUTION

安全に関する章を参照ください。
⇒ 63ページから始まります。

- * コンビ供給口を分解します。
 - * ミルクチューブの片端を洗剤溶液に入れます。
 - * ミルクチューブ全体を洗剤溶液に浸けます。
- ミルクチューブの中に泡が残らないようにするためです。
- * コンビ供給口の部品(3点)を全て洗剤溶液に浸けます。
- 全体が完全に浸かるようにしてください。
- * 5時間後、全ての部品をブラシできれいに洗浄してください。
 - * コンビ供給口とミルクチューブを水道水で完全にリンスします。
 - * ミキサーチューブがあれば、これも完全にリンスします。
 - * ミキサーチューブを入れます。



- * コンビ供給口を組み立てます。
- * コンビ供給口を元に戻します。
- * ミルクチューブを入れます。

4.5.7 スチームノズルの洗浄



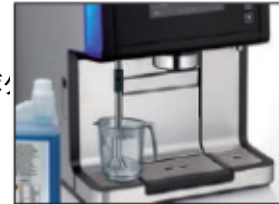
ヤケドの危険

- 飲料とスチームを供給するとき、ノズルと周囲が熱くなります。
- ⇒ 飲料及びスチームの供給中は、供給口の下に手などを入れないでください。
- ⇒ 供給直後に供給口に触れないでください。
- ⇒ 飲料供給時には、常に適したカップ等を置いてください。



毎日

- * WMF洗剤5ccを縦長の容器に500ccのぬるま湯に入れて攪拌します。
- * 溶液にスチームノズルを入れて短時間スチームボタンにタッチするか、オートスチームボタンを押します。



反応時間は約30秒です。

- * ブラシで清掃します。
- * 水できれいに洗い流します。
- * スチームボタンにタッチします。

スチームを送ることで、残ったミルク、洗剤をノズルから出します。

毎週

- * スチームノズル(ネジ留め)を外します。
- * ノズルを洗浄液に5時間以上漬けます。
- * ブラシで清掃します。
- * 水できれいに洗い流します。
- * ノズルをオートスチーム供給口につけます。
- * きれいな水を入れた容器にスチームノズルを入れます。
- * オートスチームボタンを短く押します。
- * 濡れた布巾でスチーム供給口を拭きます。



4.5.8 ミキサーの洗浄

パウダーの使用量に応じて洗浄回数を増やしてください。

- * 操作パネルを上へずらします。
- * ミキサーからコンビ供給口へのミキサーチューブを外します。
- * ミキサーボウルの下にある緑色のスタッドを反時計方向に回してあげます。
ミキサーボウルが外れます。
ミキサーのプロペラが見えます。
- * プロペラを布巾で清掃します。
- * ミキサーボウルを分解します。
- * ミキサーボウルの部品とチューブを流れるお湯で洗います。
- * 全ての部品を完全に乾燥させます。

再組み立てにあたって、全ての開口部が同じ方向を向いているようにしてください。

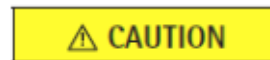
- * ミキサーボウルを元に戻します。
- * 緑色のスタッドを時計方向に回して固定します。
- * ミキサーチューブをミキサーとコンビ供給口に接続します。

イラストによる案内
⇒ コーヒーマシン
⇒ メインメニュー
⇒ ケア
⇒ 案内



ヤケドの危険

- ミキサーチューブがしっかりと取り付けられていないと、熱湯や熱い飲料が噴出することがあります。
- ⇒ ミキサーチューブはしっかりと取り付けてください。



安全に関する章を参照ください。
⇒ 63ページから始まります。

4.5.9 コーヒー豆ホッパーの清掃

コーヒー豆ホッパーは定期的に、月に1回程度は清掃してください。



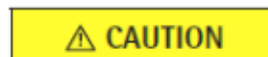
ケガの恐れ

- 長い髪の毛はグラインダーに巻き込まれる恐れがあります。
- ⇒ コーヒー豆ホッパーの取り外し時は、ヘアネットなどで防御してください。



ケガの恐れ

- コーヒーマシンには指や手を痛める可能性のある部品が使われています。
- ⇒ グラインダーや抽出部の開口部などに手を入れるときは、必ずマシンのスイッチを切り、主電源を外してください。



- ⇒ コーヒー豆ホッパーを自動洗浄機で絶対に洗わないでください。



- * 操作パネルを上へずらします。

オン・オフ スイッチが操作パネル裏の右側にあります。

- * コーヒーマシンがオフになるまで、オン・オフ スイッチを押します。
- * 主電源プラグを抜きます。
- * マルチツールを使ってロックを反時計方向に回して外します。
- * コーヒー豆ホッパーを持ち上げて外します。
- * ホッパーを完全にカラにして、湿った布巾で拭きます。
- * ホッパーを完全に乾かします。
- * ホッパーを元に戻して豆を入れます。
- * マルチツールでロックを時計方向に回してとめます。



ロックを90度回します。



4.5.10 パウダーホッパーの洗浄

パウダーの使用量に応じて洗浄回数を増やしてください。

- * 操作パネルを上へずらします。
- オン・オフ スイッチが操作パネル裏の右側にあります。
- * コーヒーマシンがオフになるまで、オン・オフ スイッチを押します。
- * 主電源プラグを抜きます。
- * マルチツールを使ってロックを反時計方向に回して外します。
- * ホッパーを後に傾け、持ち上げて外します。
- * ホッパーを完全にカラにします。
- * 前後にあるユニオンナットを外します。
- * オーガー(粉送り部)を外します。
- * ホッパーを濡れた布巾で拭きます。
- * オーガーをきれいに清掃します。
- * ホッパーと部品を完全に乾燥させます。
- * オーガーを組み込みます。



! 排出がうまくいくことを確認してください。

- * パウダーホッパーを元に戻してパウダーを入れます。
- * マルチツールでロックを時計方向に回して留めます。

IMPORTANT

5 HACCPによるクリーニングスケジュール

食品を提供する方々は、お店に見えるお客様に健康上の被害を与えることがないように努力する義務を法律上負っております。

HACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point) 危害要因分析に基づく必須管理点食品 1987年8月5日食品衛生規制
 危害(生物的、化学的、物理的) 要因を科学的に分析し、それが除去(あるいは安全な範囲まで低減)できる工程を常時管理し、記録する方法。

HACCPスケジュールは危害になり得る項目の分析と評価を求めています。

通常のクリーニングの評価をするために

お店におかれましても、危害になり得る項目の分析が必要になります。

添付のHACCPクリーニングスケジュール表を

分析の目的は、食品の衛生的な限界点を前もって確認しておくことにあります。

ご活用ください。

そのためには抜き取り検査、確認工程を作成し、実施することが必要です。

正しい設置状態、ケア、保守点検及びクリーニングによってWMFコーヒーマシンは上記の条件でHACCP転送 ⇒ 41ページ
 満たすことができます。

コーヒーマシンのケアが的確になされていない場合、提供されるミルク飲料は食品衛生面での
 危害要因の一つになります。

HACCPスケジュールの求める要件を満たすために、以下の項目をお守りください。

ミルクシステムの毎日の衛生



WMF認定の洗剤だけを使用してください。

- ケアの章のミルクシステムのクリーニング法を確実に守ってください。これによって業務
 開始時の細菌付着率が最少になります。

ケアの章を参照ください。

⇒ 42ページから始まります。



インフォメーションパッド  で直近のクリーニング内容呼び出せます。
 USBパッド  でHACCP記録を転送できます。

TIP

業務開始にあたっては常に新しく開封した冷蔵ミルクをご使用ください

- パックされたUHTミルクは通常細菌は存在しません。業務開始にあたっては常に冷蔵されたミルクパックを新しく開けてお使いください。
- ミルクパックを開封する際に、汚染ないように手や道具に充分お気をつけください。

推奨
脂肪分1.5%のUHTミルクを使ってください。

ミルクは常に冷蔵してください

- 新鮮で冷蔵したミルクパックをいつも備えてください。
- ミルククーラーを使わずに業務をされるときは、できるだけ早く使い切ってください。必要に応じて冷蔵庫に戻してください。
- 開封後少ししかミルクを使わないときは、業務中でも冷蔵庫に戻してください。

業務開始時のミルク温度は6-8℃のものを
使ってください。
設定によっては1リットルのミルクで20杯の
カプチーノを作れます。
WMF製品として小型冷蔵庫、ミルククーラーが
あります。

HACCPクリーニングスケジュール										月 ____ 年 ____		
<p>健康を守るために滅菌済み(UHT)の冷蔵されたミルクを使用してください。 チョコ/トッピングのパウダーは必ず賞味期限内のものをご使用ください。</p> <p>洗浄のステップ</p> <p>1. コーヒー抽出システムのクリーニング ⇒取扱説明書 ケアの章</p> <p>2a. ミルクシステムをマニュアル洗浄 標準マシンは毎日、プラグアンドクリーンは毎週</p> <p>2b. 毎日のミキサーリンス ⇒取扱説明書 ケアの章</p>												
日	洗浄ステップ				確認	日	洗浄ステップ				確認	
	時間						時間					
	1	2	3	4			1	2	3	4		
1						17						
2						18						
3						19						
4						20						
5						21						
6						22						
7						23						
8						24						
9						25						
10						26						
11						27						
12						28						
13						29						
14						30						
15						31						
16												

6 メンテナンスとカルキ除去

当コーヒーマシンは業務用で、定期的にメンテナンスとカルキ除去作業が必要であることをご注意ください。

メンテナンスの時期はマシンの使用状況により決まり、ディスプレイに表示されます。WMFサービスによってメンテナンスがされるときには、同時にカルキ除去も実施されます。

コーヒーマシンはメンテナンス時期の表示があった後も使用できますが、お客様によるケアと契約上のメンテナンスは不可欠です。これによって、マシンの正常な作動を確保し、故障を防ぐことができます。

6.1 メンテナンス

ディスプレイ表示後のメンテナンスはWMFサービスまたは必要な訓練を請けた技術者のみが行います。このとき、安全に係わる部品は交換されます。

メンテサービス表示

⇒ 表示と案内 59ページ

6.2 WMFサービス

WMFのサービスにつきましては、下記にお問い合わせください。




重要！

メンテナンス、修理などにつきましては
サービスステーションにお問い合わせください。
電話番号はマシンに貼ったステッカーにあります

7 表示とメッセージ

7.1 操作上のメッセージ

コーヒー豆の補充

- * コーヒー豆ホッパーに補充します。(ディスプレイ参照)
- * 確認
 - コーヒー豆ホッパーのロックは解除されていますか?
- ⇒ ケア
- コーヒー豆がちゃんと落ちない
- * 大きめのスプーンでホッパー内をかき回し  で確認。

給水栓を開けてください

- * 給水栓を開けて、確認。

カスウケをカラにしてください

- * カスウケをカラにする

カスウケがありません

- * カスウケを正しい位置に戻す。

浄水フィルターを交換してください

- * WMFサービスに連絡してください。
- 浄水フィルターの取扱説明書に従ってください。

取扱説明書を参照ください

- エラー番号を表示
- ⇒ エラー表示／不具合

WMFサービスに連絡してください

- エラー番号を表示
- ⇒ エラー表示／不具合

サービス案内

この案内が出ると、メンテナンスが必要です。

- * WMFサービスに連絡してください。

サービス案内は指示の一種です。
通常はコーヒーマシンはそのまま
お使いいただけます。

7.2 エラー表示と不具合

エラー表示や不具合が発生したときの基本的な対応

- * コーヒーマシンのスイッチを切り、数秒後に再び入れる。
- * エラーの出した操作をもう一度してみる。

多くの場合、この操作で不具合を解消して操作を続ける事ができます。

この操作で解消できなかったときは、エラー表示またはエラー番号を元に以下の表を参照して対応してください。


それでも解消しない、またはリストにない場合はWMFサービスにご連絡ください。


何件かの表示は供給を停止するものがあります。この場合、飲料ボタンが消えています。

飲料ボタンが点灯しているときは供給が続けられます。

WMF8000Sには、自動診断プログラムが入っています。どの不具合もディスプレイ表示されます。

不具合の原因の一つに主電源の切断も考えられます。

不具合が電気に関するもの、または操作者へのお知らせである場合  パッドが表示されます。

- *  にタッチします。

エラー番号とエラー内容が表示されます。



案内

コーヒーマシンはオン・オフ スwitchを押してから約1秒後に反応します。
不具合の解消のためにソフトの電源が落ちない場合は、オン・オフ スwitchを押し続けてください。

INSTRUCTIONS

7.3 エラー表示の出ない不具合

不具合	対応
● コーヒーの量が左右で違う	<ul style="list-style-type: none"> * コンビ供給口を洗浄します。 ⇒ ミルクシステムをマニュアル洗浄します 51ページ
● 容器にあるのにミルクフォームやミルクが出ない	<ul style="list-style-type: none"> * ミルクチューブが折れ曲がっていないか点検 * ミルクチューブを正しく配します * コンビ供給口を洗浄します。 * ミルクノズルが詰まっていないか点検 ⇒ ミルクシステムをマニュアル洗浄します 51ページ
● ミルクフォームの状態が悪い ● 温度が高すぎるか、低すぎる	<ul style="list-style-type: none"> * ミルクチューブがピンチバルブに正しく入っているか確認
● ミルクフォームが噴出す ● ミルクが熱すぎる	<ul style="list-style-type: none"> * ミルクシステムの洗浄をしたかどうか確認 * ミルクシステムの洗浄 ⇒ ミルクシステムのクリーニング 48ページ * ミルクが冷えているかどうか確認
● パウダー使用の飲料の詰まり	<ul style="list-style-type: none"> * チューブが折れ曲がっていないか確認 * ミルクシステムの洗浄とリンスの実施(必要なら毎日) ⇒ クリーニングの間隔の概要 44ページ ⇒ ミルクシステムをマニュアル洗浄します 51ページ * パウダー量を減らす * 湯量を増やす

8 安全について



誤った使用は危険です

- 安全についての支持に従わなかった場合、生命にかかわるケガをする恐れがあります。
- ⇒ 安全についての指示には全て従ってください。

WARNING

8.1 操作者への危険

WMFにおきましては、安全性を最も重視しております。しかしながら、以下に記述しております項目をお守りいただいて初めてその効果が発揮されます。



⇒ ご使用を始める前に取扱説明書を良くお読みください。

⇒ マシンの熱い部分に触らないでください。



⇒ 作動不良、または故障したマシンは使用しないでください。

⇒ マシンの使用は完全に組み立てられた状態でしてください。

⇒ 組み込まれた安全のための部品は絶対に外さないでください。

⇒ マシンは下記の方々が使用されることを想定しておりません。

子供、精神または身体的に障害をお持ちの方、マシンについての知識、使用経験のない方。しかしながら、これらの方々が十分に使用経験と知識をお持ちの方の指導の下にマシン操作をされる場合は、この限りではありません。

⇒ 子供たちがマシンを遊びの道具にすることは、絶対に避けてください。

CAUTION

マシンには種々の危険を回避するための措置がされておりますが、間違った使用法によって危険に陥る可能性もあります。以下の説明をお読みいただき、ケガや健康被害を避けていただくようお願いいたします。



電気ショックによる生命への危険

- コーヒーマシン内の主電源電圧は生命にかかわる程高圧です。
- ⇒ マシンは絶対に開けないでください。
- ⇒ ネジを緩めたり、外装の部品を取り外さないでください。
- ⇒ 痛んだ主電源ケーブルは絶対に使わないでください。
- ⇒ 電源ケーブルを傷つけないようにしてください。折り曲げたり、つぶさないでください。

WARNING



ヤケドの恐れ

- 飲料やスチームの供給中は、熱い液体が供給口から出ます。供給口や周辺は大変熱くなります。
- ⇒ 飲料やスチームの供給中は、供給口の下に手などを入れないでください。
- ⇒ 供給直後に、供給口に手を触れないでください。
- ⇒ 飲料供給の際は、適した大きさのカップを必ず置いてください。

CAUTION



ケガの恐れ

- 長い髪の毛はグラインダーに巻き込まれる恐れがあります。
- ⇒ コーヒー豆ホッパーの取り外し時は、ヘアネットなどで防御してください。

CAUTION

**ケガの恐れ**

- コーヒーマシンには手や指を損傷する恐れのある可動部品が使われています。
- 操作パネルを閉じる際にも危険があります。
- ⇒ コーヒーグラインダーや抽出部に触れるときは、必ずスイッチを切り、主電源を外してください。
- ⇒ 操作パネルの開閉に気をつけてください。

⚠ CAUTION

**健康に害の恐れ**

- コーヒーマシンに使用できる材料だけをお使いください。
- ⇒ パウダーホッパー、コーヒー豆ホッパー、マニュアル投入口には、適切な材料を入れてください。

⚠ CAUTION

**健康に害の恐れ**

- ミルクシステム用洗剤と洗浄用錠剤は刺激物です。
- ⇒ 洗剤の包装に記された注意書を守ってください。
- ⇒ ディスプレーにその旨の表示が出てから錠剤を入れてください。

⚠ CAUTION

**健康に害の恐れ／刺激及びヤケドの恐れ**

- 洗浄中、熱い洗剤溶液と熱湯がコンビ供給口と熱湯ノズルから出ます。
- 溶液は皮膚を刺激し、熱い液体でヤケドをする恐れがあります。
- ⇒ 洗浄中に手などを供給口の下に入れてください。
- ⇒ 洗浄溶液を絶対に飲まないようにしてください。

⚠ CAUTION



滑る恐れ

- コーヒーマシンの誤使用または不具合によって、液体がこぼれる恐れがあります。滑って転倒する危険があります。
- ⇒ 定期的にコーヒーマシンに水漏れがないか、チェックしてください。

CAUTION

安全に関する章を参照ください。
⇒ 63ページから始まります。

8.2 コーヒーマシンへの危険



取扱説明書に従ってください

取扱説明書に従わないで起きた損傷に対しては保証できません。
設置と使用に関して条件をお守りください。

設置場所の条件

- 乾燥していて、水のかからない場所に限ります。
 - コーヒーマシンからは常に水分や蒸気が出る可能性があります。
- ⇒ コーヒーマシンを屋外で使わないでください。
⇒ コーヒーマシンは放水のかからない場所に置いてください。
⇒ コーヒーマシンを置く台の表面は防水性があり、熱に強いものにしてください。

コーヒーグラインダー

- 異物が混入すると、グラインダーを傷める恐れがあります。
異物混入による損傷は保証対象外です。
- ⇒ コーヒー豆ホッパー内に異物が混入しないようにしてください。

IMPORTANT

製品保証の章参照
⇒ 71ページから始まります。
設置と使用環境
⇒ 72ページから始まります。

コーヒーマシンの損傷を避けるために次の事柄にご注意ください。

- 水の硬度が5dKHを超える地域での使用の際は、WMF推奨のカルキ除去フィルターをご使用ください、カルキがコーヒーマシン内に堆積するのを防ぐためです。
- 安全を確保するために、業務終了時には給水栓を閉め、主電源スイッチを切るか電源プラグを抜いてください。
- 損傷を防ぐために次のことをお奨めします。
 - 給水系に適切な水質モニターの取り付け
 - 煙検知アラームの取り付け
- (お盆など)長期にわたってのお休みの後マシンを使用する際、マシンクリーニングを少なくとも2回行なってからご使用ください。

管路洗浄

⇒ クリーニングプログラム 45ページ

8.3 マシンの使用目的

WMF8000Sはコーヒー、ミルク、パウダー(チョコ／トッピング)などを種々の組合せでカップまたはポットに供給します。

このマシンは主に業務用として経験のある操作者に使用されると共に経験のない方にも操作できるようになっています。

経験のある方の管理下で、セルフサービス用に使用できるように考えられています。

このマシンの使用は、WMFが定める使用のための環境条件と取扱説明書に従って行われる必要があります。上記2件の受験に準じない場合は誤使用とみなされます。

これによって生じるいかなる損傷、損害に対しても責任を負うことはできません。

WMF8000Sは、コーヒー、熱湯(飲用、洗浄用)、またミルク(冷蔵、滅菌済み、UHT)以外の加熱された液体を提供することはありません。

8.4 規制及び指針

このマシンは、ドイツ食品コード(LFGB)、製品規制(BedGgstV)、EU規制No. 10/2011とNo.1935/2004に準拠しております。

適正に使用されれば、当マシンは健康に悪影響を与えたり、その他の理由のない危険を生じることはありません。

材料及び原材料は、製品規制やEUの規制 No.12/2011 を満足しております。

当マシンは、以下の全ての規制、指針に準拠しております。

MD(MR)2006/42/EC(EG), 2004/108/EC(EMV), 2011/65/EC(ROHS),2002/96/EC(WEEE)

EC適合宣言書はこのマシンに同梱されております。

当マシンは、CEマーク取得済みです。

WMFによって認められていない改造は、この宣言書を無効とします。

EU域外の国での規準、規制に関しましては、当該国の規準に準拠するものとします。

このマシンは電気電子機械廃棄物としての指針(WEEE/EU)によって家庭(通常)廃棄物として廃棄することはできません。

EC規制 No.1935/2004 と EC 規制 No.2023/2006 の中の品質管理規準での追跡可能性を保証するものです。



廃棄については
WMFサービスにご連絡を
住所⇒58ページ

8.5 オーナー／操作者の義務

マシンの所有者、操作者の方はWMF認定のサービス員による定期的な保守点検作業と安全に関する部分の点検をお受けください。

保守点検、修理作業は安全面と衛生面からWMF認定の知識と経験のあるサービス員だけがあたるようにしてください。

コーヒーマシンの点検、手入れを操作者の方が障害なくできるような環境にしてください。

セルフサービスでマシンをご使用になる場合は、知識をお持ちの操作者の方だけが基本的に調整等をするようにしてください。

点検、ケア、使用法の説明も知識のある方だけが携わるようにしてください。

マシンをご使用になる施設の電気設備が使用地域の規制を準拠していることをご確認ください。

コーヒーマシンを安全にお使いいただくためには、セーフティバルブ、圧力容器(ボイラー)などの

定期的な点検作業は、その他の定期点検とともに欠かすことはできません。

安全な運転を確保するために、WMFサービスの保守点検作業をお受けください。

マシンのクリーニングは必ずWMF専用の洗剤(錠剤)をご使用ください。ミルクシステムには

洗浄溶液、マシンのカルキ除去はWMFサービスだけにお任せください。

メンテナンスの内容と頻度につきましてはWMFの定めるものをご留意ください。

WMF専用洗剤
付属品と部品 74ページ

WMFカルキ除去剤
付属品と部品 74ページ

8.6 製品保証について

**取扱説明書に従ってください**

- 取扱説明書に従わない操作によって生じた損傷については保証対象外となります。
- ⇒ 設置と使用環境をお守りください。

IMPORTANT

設置と使用環境⇒72ページ

WMFコーヒーマシンの品質保証期間は納品日から12ヶ月間です。

保証期間は12ヶ月

WMFでは常にマシンの構造的な不具合を改善するように努めております。

前述期間外での不具合に関する保障請求は、重大な構造的欠陥によるもの他はお受けできません。

部材の材質に関する不良につきましては、WMFへ書面でお知らせください。

保証除外について

- 経時的、疲労的に使用不可になった部品。シール、ミキサー、抽出部も含まれます。
- 天変地異、カルキ堆積、化学的、電氣的障害によるもので、WMFの責任に属さない不具合。
- カルキ除去フィルター使用が不可欠な水質にもかかわらずフィルターを使用しないで不具合に至った場合。 マシンご注文にあたってカルキ除去フィルターの取り付けについてお伺いいたします。
- WMFが認めた以外の部品使用による修理、WMFが認めた以外の第三者による修理作業または無視の結果として生じた不具合。
- WMFが認めた以外の第三者によるマシン改造の結果生じた不具合。
- 取扱説明書に記述された以外の使い方をした結果の不具合。

重要

⇒ メンテナンス 58ページ

付録:技術データ

マシンの仕様

電源電圧	220-240V
消費電力	3.4-3.8KW
パワーサプライ	220-240V 50/60Hz 1/N/PE
ヒューズ	1x16A
コーヒー豆ホッパー(大)	約1150g**
コーヒー豆ホッパー(小)	約730g**
パウダーホッパー(オプション)	約1200g
照明	LEDクラス1
外形寸法	幅 390mm 高さ 744mm コーヒー豆ホッパーとロック付き 奥行 590mm(598mm ドリップトレイの小先端)
乾燥重量	約76kg (グラインダー3基、ミキサー1基、ミルク1基)
連続騒音レベル(Lpa)	<70dB(A)***

当仕様は予告なく変更することがあります。

* オプションのパウダーホッパーのときのみ

** 容量はコーヒー豆の大きさによります

*** マシンの操作者周辺の騒音レベルはアイドル中も稼動中も70dB以下。

設置と使用条件

電気設備、給水設備、排水設備等の施設に関する準備は、お客様の管理下でご用意ください。

これらの作業はご使用地域の規制を遵守し、資格のある技術者の方にご依頼ください。

WMFの技術員は、コーヒーマシンをご用意いただいた設備に接続いたします。

WMFの技術員は、あらかじめ用意された電気、給水、排水の設備の状態の責任は負えません。

必要に応じて、アース端子の取り付けはWMFの技術員が行います。

電源電圧許容範囲	230V +6% -10%/400V +6% -10% 機能に影響しない停電時間<50ms
給水	TW15(DN15 最低 DN6または1/4インチ)コネクター、給水栓、 0. 2-0. 25mmメッシュの浄水器 (低水圧時) 流量毎分2リットル時の最低圧0. 05Mpa(0. 5bar) (標準) 流量毎分2リットル時の最低圧0. 30MPa(3. 0bar) 最高圧0. 6MPa(6bar) 最高水温 35℃ マシンに付属の新品のホースを使用。 新品の浄水器使用。 中古のホースは使用不可。
水質	飲料水使用。 dKH5度以上の場所ではカルキ除去フィルター使用
排水	19mm排水管使用、1mあたり2cm以上の傾斜。
使用温度	5℃-35℃(凍結防止に水抜き)
使用最高湿度	相対湿度80%、露滴なし 戸外での使用禁止
防護度	IP X0
設置面	水平で凹凸なく、しっかりした面に設置する 放水、スチーム噴射などによる洗浄場所への設置は禁忌
マシン周囲の空間	マシン操作、サービス、安全の観点からマシンの横及び後は 壁ないしWMF付属機器以外の機器から最低50mm離す。 マシン前面に800mm以上の空間を確保すること。 マシン設置面からは最低1100mm確保する。 床からマシン設置面までは最低850mm確保する。 給排水、電気等をマシン下に設ける場合、マシン下の 利用可能空間が少なくなります。
カルキ除去フィルターの 占有空間	カルキ除去フィルターの説明書を参照ください。

上記の技術データは基本的にEU(ヨーロッパ)の規準に基づいております。従って、ご使用になる地域の規準をお調べいただき、定められた基準を準拠するようにしてください。

主電源の工事はIEC364(DIN VDE 0100)に沿って行ってください。

より安全にするために、EN61008準拠のFI30mAのアース漏れ電流検知のブレーカーと接続してください。(残存電流ブレーカー タイプBは異常電流がスムーズでも安定した作動をします。これによって、より高度な安全性を確保します。)

マシンの近傍、または台下30cmに衝撃に耐えうる単相のプラグソケット(使用国の基準の)を用意してください。三相電源利用の場合は、ご使用地域で認定されている複数ピンのソケットをお使いください。主電源スイッチとソケットは施設設備になります。

主電源ケーブルは熱いものに触れないようにお気をつけください。

マシンのケーブルが損傷した場合は、危険防止のためにWMFサービス員または相応の技術者に交換をお任せください。

モバイルステーションなどの移動台に取り付けられたマシンは、主電源に直接接続することは厳禁です。

自動販売システムと接続して使用する場合、機械間の差を補正するために追加の等電位化ユニットの採用も考えられます。(EN60309 参照)

付録: 付属品とスペアパーツ

数量	単位	名称	注文番号	使用モデル
コンビ供給口				
1	個	コンビ供給口カバー コンプリート	33-2878-8000	フレッシュミルク(アクティブミルクなし)
1	個	コンビ供給口カバー コンプリート アクティブミルク	33-2874-3000	アクティブミルク
1	個	シングル供給口	33-2889-5000	全て
1	個	ダブル供給口	33-2889-6000	全て
1	m	ミルクチューブ	00-0048-4948	全て
1	個	プラグアンドクリーン アダプター	33-2427-5000	プラグアンドクリーン又はアクティブミルク
1	個	ミルク ノズル	33-2046-0100	フレッシュミルク(プラグアンドクリーン、アクティブミルクなし)
1	個	ノズル	33-1384-3100	アクティブミルクには不使用
ホッパー(コーヒー豆、パウダー)				
1	シート	識別ラベル	33-2624-7000	全て
1	個	フタ	33-2542-1000	全て
1	個	ロック付フタ	33-2867-2000	全て
1	個	スペアキー	33-2071-8100	全て
1	個	ミキサーボウル	33-2318-0000	パウダー
1	個	ミキサーボウル供給口	33-2544-9000	パウダー
1	個	コーヒーメジャースプーン	33-0742-4000	全て
1	個	マルチツール	33-2323-1000	全て
カスウケ				
1	個	カスウケ(シートメタル付き)	33-2789-8000	全て
ドリフトレー/グリッド				
1	個	ドリフトレー(大)	33-2875-5000	全て
1	個	グリッド(大)	33-2537-0000	全て
1	個	ドリフトレー(小) カップ台	33-2483-6000	全て
1	個	グリッド(小) カップ台	33-2537-1000	全て

数量	単位	名称	注文番号	使用モデル
カップアンドクール 36cm				
1	個	ミルク容器 350	33-2418-4000	フレッシュミルク
1	個	ミルク容器 フタ 350	33-2388-8000	フレッシュミルク
等電位化アース端子				
1	個	アングル	33-2107-1100	
1	個	歯車	00-0047-2257	
1	個	平ネジM6X16	00-0047-3414	
1	個	ヘックスナット	00-0047-2055	
WMF 手入れプログラム				
1	ボトル	ミルクフォーマー用 WMF洗剤	33-0683-6000	全て
1	パック	WMF 洗剤錠(100錠)	33-2332-4000	全て
1	個	パイプクリーナー	33-0350-0000	全て
1	個	洗剤ブラシ	33-1521-9000	全て
1	チューブ	WMF モリコート ガasketグリス 5g	33-2179-9000	全て
1	個	洗剤容器 アクティブミルク	33-2593-6000	アクティブミルク
1	個	洗剤容器フタ アクティブミルク	33-2593-7000	アクティブミルク
取扱説明書など				
1	個	WMF8000S 取扱説明書一式	33-2609-8010	全て

索引

- (操作)安全上の説明 10
「供給可能」ディスプレイパッド 19, 21
「供給可能」表示 7, 21
HACCPによるクリーニングスケジュール 56
HACCPのエクスポート 41
SBモード(セルフサービス) 31
S-M-L ボタン 12
S-M-L(小中大) 31
USB 41
WMFサービス 58
安全について 63
安全のための部品 63
イルミネーション 7, 38
インフォメーション 33
飲料 23
飲料供給 11
飲料のブレ選択 32
飲料ボタン 7, 21
飲料ボタンと設定のタッチパネル 7
ウェイター会計 34
受け皿 50
エラー表示 32
エラー表示と不具合 60
エラー表示の出ない不具合 62
オートスチーム 7
オートスチーム(オプション) 14
オーナー/操作者の義務 70
オン/オフ スイッチ 7
会計 34
会計のPIN 35
概要 19
カウンター 34
カウンターのエクスポート 41
カスウケ 7, 17
カスウケの洗浄 49
画像 23
ロード カップシンボル 41
カップの高さ 28
カップの容量 24
カップの容量 小中大 24
技術データ 72
規制及び指針 69
給水 73
供給可能 19, 21
供給オプション 24
供給キャンセル 11, 32
供給テスト 23
クリーンロック 22
クリーニングのPIN 35
クリーニングの間隔 44
クリーニングプログラム 22, 45
ケア 22, 33, 42
ケアと安全に関する説明 42
言語 40
現在のレシピの構成 25
イベントの表示 39
工場で設定された追加の保存 25
コーヒーグラインダーの選択 27
コーヒー粉の量 26
コーヒーの質 27
コーヒーマシンの各部の名称 6
コーヒーマシンのスイッチを入れる 11
コーヒーマシンへの危険 66
コーヒー豆ホッパー 7
コーヒー豆ホッパー/パウダーホッパー 15
コーヒー豆ホッパーの清掃 54
コメント 28
コンビ供給口(ミルクフォーマー内蔵) 7
コンビ供給口のマニュアル洗浄 51
サービス 33
時刻/日付 36
システム 38
ブレ設定パッド(オプション) 12
自動販売機 34
錠剤投入口 7
浄水フィルター 40
序章 6
スイッチオフ 18
スタートストップ 24
スタートストップフリーフロー 25
スチームノズル 7
スチームノズルの洗浄 52
スチームボタン 7
スペシャルボタン(熱湯) 7
セーブレシピ 23, 41
製品保証について 71
設置と使用条件 72
設置面 73
設定のPIN 35
説明 23
操作 10
操作者への危険 63
操作上の案内 59
操作オプション 29
操作パネル 7
操作パネルの清掃(クリーンロック) 49
ソフトウェア 19

- 台下カスウケ(オプション) 17
タイマー 33, 36
タイマー スイッチ オン/オフ時刻設定 37
タイマー設定状況と設定 36
タイマーの状態 36
高さ調整可能カップ台 7, 15
高さ調整機能つきカップ台 15
タッチディスプレイの計測 39
抽出温度 26
抽出システムのクリーニング 45
直近の抽出 33
追加 25
追加の削除 26
追加の変更 26
コールドミルクフォームの割合 38
ディスプレイ上の表示 20
ディスプレイの明るさ 39
定量 24
データの転送 41
データのバックアップ 41
デカフェ係数 30
電源電圧 72
電源電圧許容範囲 73
当日の詳細 36
取扱説明書 33
取扱説明書の記号とマーク 8
取扱説明書のマーク 8
ドリフトトレイとグリッド(取り外し可能) 7
ドリフトトレイの洗浄 50
熱湯温度の事前選択 30
熱湯供給口 7
熱湯の供給 12
ハウジングの清掃 50
パウダーホッパー(オプション) 7
パウダーホッパーの清掃 55
パスタパッド 7, 31
パスタパッド-コーヒーの濃さ 21
表示と案内 59
品質レベル 27
ファームウェアの更新 41
フィルターの容量 40
フィルター交換(オプション) 23
付属品とスペアパーツ 76
フリーフロー 25
ページ変更ボタン 7
報告 33
保証除外について 71
ボタンの入れ替え 29
ボタンの配置 29
ボタンの配置概要 37
ボタンの配置の条件 37
ボタンのレイアウト 29
「ホットリンス」パッド 7, 21, 32
ホットミルクフォームの割合 38
マシン周囲の空間 73
マシンのオプション 40
マシンの仕様 72
マシンの使用目的 68
マニュアル投入パッド 7, 16, 21, 32
マニュアルの洗浄 49
ミキサーの洗浄 53
ミキサーのリンス 47
水の質 73
ミルクシステムクリーニングの概要 48
ミルクシステムのマニュアル洗浄 51
ミルクシステムのリンス 47
ミルクとの接続 13
ミルクとの接続-WMFクーラー、カップアンドクール 13
ミルクとの接続-標準 13
ミルクとミルクフォーム 38
ミルクの量 26
ミルクフォーマーのリンス 48
ミルクフォーマーリンスの知らせ 30
ミルクフォームの選択 31
ミルク保存温度 38
ミルクまたはミルクフォームの供給 12
メインメニュー 機能 20
メッセージパッド 7
メニュー管理パッド 20
メニューパッド 7, 32
メンテナンス 58
メンテナンスとカルキ除去 58
文字とイラスト 28
湯量 26
用語説明 9
レシピの変更 25
レベルスイッチ 29
連続抽出 24
ロードレシピ 30, 41

裏表紙

WMFサービスステーション

著作権 2012—2013 WMF AG

複写、配布、翻訳など全ての権利を保有します。

書面による許諾なしに、当マニュアルの一部または全ての複製製造、変更、複写、配布は
電子的手法によるものも含めて禁止します。

製品の技術的変更を予告なしにすることがあります。